

住民の稀薄は回亂の結果

董福祥と端郡王

高くして且つ厚きと、牖窓少くして且つ小なるを異にせり。惟ふに一は風を防ぎ寒を凌ぐと同時に賊難警戒の爲めならんか。而して家屋の西北部に楊柳を列植する亦防風の目的ならん。

蘭州、肅州間の途上、一二の都會を除けば、實に住民の稀薄なるを感せずんばあらざるなり。處々部落相踵げるは、敢て他と異ならずと雖も、是等は皆、頽垣壞壁空しく風雨の浸蝕に委するのみ。聞く同治の年即ち回亂以前は、以上の部落悉く回民の住む所なりしも、當時漢人の爲めに放逐せられて深く山中に遁避し斯くは荒涼索寞の状を呈するに至ると。

支那全國中、回民の多きは、甘肅省を以て第一とし、其數實に百萬を算すと。而して彼等が漢人の爲めに追放せられて、現に最も多く集團せる地は固原クヨワン、西寧ニンニン、寧夏ニンシャの附近とす。先年團匪の巨魁たりし董福祥(明治四十一年二月十日死去の報あり)は偉大の信用を回民間に博し、夙に其の頭目に推され、今固原縣の金鷄堡に餘生を送り復た當年の意氣なく、昨春彼が所有の銃砲は、悉く之を蘭州の武庫に納めて、從順の意を表し、且つ端郡王も寧夏の北方阿拉善アラシャンに住み、敢て活動せんとするの模様な